（2023年11月29日付・下野新聞22面）　記事は加工しています

NIEもつけワークシート　下野新聞

191

小学校中学年～高学年向け

年組

那珂川・ふるさと納税でも人気

記者リポート

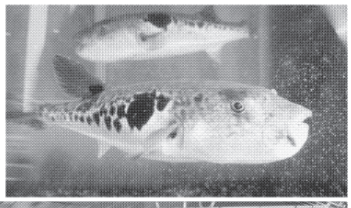
那珂川町の特産品「温泉トラフグ」の養殖に取り組んでいた町内企業が養殖事業から撤退し、引き継ぐ事業者が見つかっていない。町のふるさと納税の返礼品として高い人気があり、町内の飲食店などでは目当てにする客が目立つなど、町に欠かせない品だった。このまま途絶えることは「町の産業にとって大きな痛手」と話す関係者。町は事業の継承に関心を持つ業者らからの相談を積極的に受けている。10年以上かけて育ったブランドは岐路に立っている。

（富井太啓）

「温泉トラフグ」岐路に

養殖企業撤退 存続の〝危機〟

町、後継者を期待



那珂川町内の企業が養殖事業から撤退し、後継の事業者が見つかっていない「温泉トラフグ」＝2016年11月

温泉トラフグの養殖施設＝2016年11月

温泉トラフグの始まりは15年ほど前にさかのぼる。町内で環境分析などを行う会社を経営していた野口勝明さん＝2020年に63歳で他界＝が、町内で湧出する塩分を含んだ温泉水を地域活性化に生かそうと、高級魚のトラフグを温泉水で養殖する研究を始めた。2010年には株式会社「夢創造」を設立し、養殖や販売事業を本格化させた。17年には、町内企業が事業を引き継いだ。

海のない本県で、全国初の温泉水による海水魚の養殖は話題を呼んだ。①

町のふるさと納税の返礼品に登録されると、一時は年間寄付額の半額程度が温泉トラフグを返礼品とする寄付だったこともあった。

町観光協会などが過去に実施した養殖場などの見学ツアーは「すぐに満席になった」（同協会）。同協会の担当者は「根強いファンがいて、飲食店や宿泊施設にはかなりの恩恵があったのでは」と話す。

②［　　］本来は海上で育つトラフグの陸上での養殖は簡単ではない。③水温や水質の管理には手間とコストがかかり、病気のリスクも高い。

関係者によると、昨年10月、養殖事業を引き継いでいた町内企業が町役場を訪れ、赤字が膨らんでいることを伝え、返礼品からの取り下げを要請。今年春ごろの最終出荷で、企業は養殖事業から撤退した。

町には今年の初めごろから、温泉トラフグの養殖に関心を持つ業者などから、月に数件程度の相談が寄せられている。10月末にも、関心を持つ関東圏在住の個人からの相談を受けたばかりだ。町は「町の目玉であり、野口さんの地域活性化の思いも引き継ぎたい。町内で生まれた技術を大切にしてくれる人を探したい」としている。

設　問

【1】栃木県内で、温泉トラフグを特産品としているのは次のうちどこですか。記事を読んで、（ア）～（エ）の記号で答えましょう。

（ア）宇都宮市　（イ）上三川町　（ウ）日光市
（エ）那珂川町

【2】次の（ア）～（エ）のうち、記事から読み取れることはどれですか。正しい文には○、そうでない文には×を（　）の中に書きましょう。

（ア）温泉トラフグの養殖は、15年ほど前に始まった。（　　）

（イ）温泉トラフグは、ふるさと納税の返礼品としても人気が高かった。（　　）

（ウ）温泉トラフグの養殖場の見学ツアーは、トラフグの成長に影響があるため行われていない。（　　）

（エ）温泉トラフグに関心をもつ業者が全く見つからないことに課題がある。（　　）

【3】線①について、温泉トラフグの養殖が話題になったのはなぜですか。記事の言葉を用いて理由を書きましょう。

【4】②に入る言葉を、次の（ア）～（エ）から一つ選び、記号で答えましょう。

（ア）だから　（イ）一方で　（ウ）そのため　（エ）つまり

【5】線③について、温泉トラフグの養殖が簡単ではないのはなぜですか。記事の言葉を使って、30字程度で書きましょう。

【6】次の２人の会話を読んで、答えましょう。

かおりさん…栃木県のある地域の特産品の「温泉トラフグ」を食べてみたいな。

てつやさん…でも、これからも安定して食べられるとは限らないよ。養殖の存続に課題があるんだって。

かおりさん…えっ、なんでだろう。

てつやさん…今まで養殖に取り組んでいた町内企業が撤退して、（　A　）事業者が見つからないみたいだよ。

かおりさん…これから町は、地域活性化の思いも引き継ぎ、（　　B　　）人を探していく必要があるね。

会話のＡとＢに入る言葉や文章は何だと考えられますか。記事の中からＡは４字で、Ｂは18字で書き抜きましょう。

監修は那須塩原市小学校社教育研究会社会科部会・島田賢豊浦小教諭